茨内水試図

内水試だより 93

冬の水質の重要性

一月は気温が高く暖冬や水不足に関する話題が数おおく聞かれました。湖水の水温も一月の平均値が平年に比べ2度も高く漁業や水質への影響が心配されましたが、二月に入り冷え込んだために二月の水温は0.3度だけ高めにとどまりました。

暖冬や渇水の年はプランクトンの異常発生などがおこります。まず、現在、産卵やふ化がすすんでいるワガサギへの影響が考えられます。最近2~3月の水温が低いほどワカサギ豊漁とゆう傾向がめだちます。

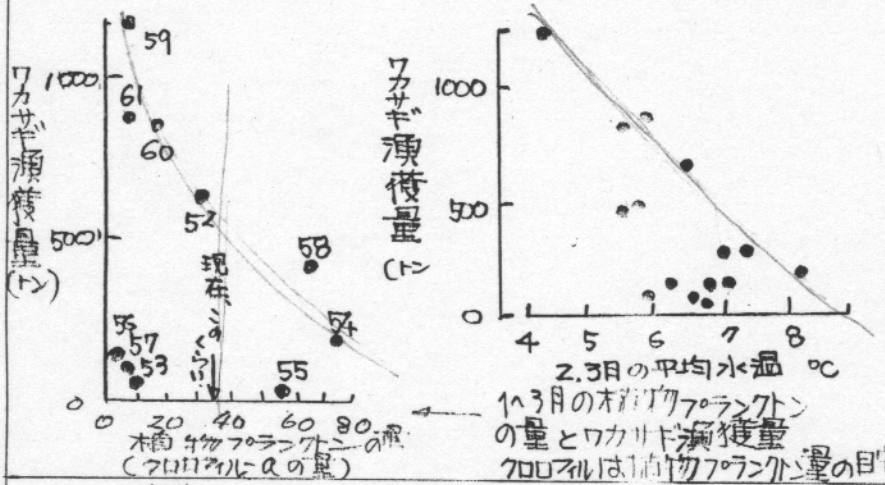
また、冬期に水が澄まず、植物プランクトンの勢力が盛んな場合にも不漁傾向がみられます。一月には霞ヶ浦、北浦とも、らん藻のオシラトリアやフォルミヂウムがみられましたが、二月に入りプランクトンは珪藻に変わり、透明度も上昇、水質には好転の兆しがみられます。

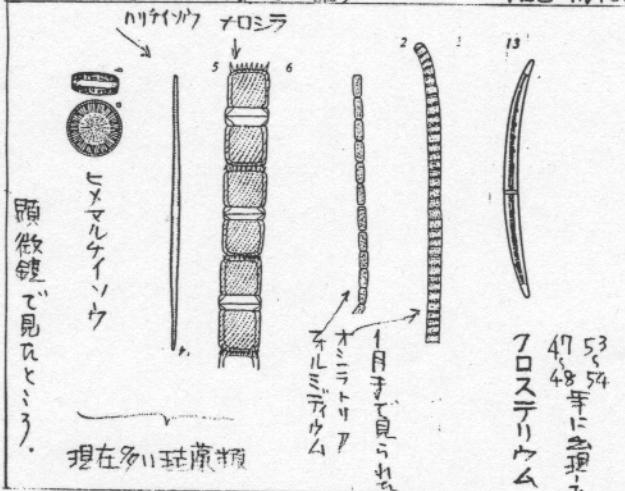
冬季の水質で問題となるのは、7月におこる酸欠です。渇水年の47-48年や53-54年の冬季にはクロステリウムという緑藻が大量に出現し、ワカサギは不漁、夏期には大規模酸欠と最悪のパターンとなったのはいまだに記憶に新たなところです。これは低水温期に増殖したクロステリウムが6月の水温上昇期に入って枯死したことによる酸欠のためにおこる現象です。現在のところ、クロステリウムは見あたりませんから、こうした状態にはならないでしょう。しかし、冬季に植物プランクトンが多い年には7月の酸欠が大きくなる傾向がありますから、今後の気象条件や水質を見守らなくてはなりません。

地点	木原	湖心	大井戸	水原	白鳥	馬渡
1月	1.3m	0.9m	1.1m	1.7m	1.8m	1.3m
2月	1.35	1.55	1.2	2.9	2.2	1.7

(現在の状態) 透明度↑ ↓水温

区分	12月	1月	2月
平年値	8.0	3.9	4.3
今期	7.1	6.0	4.6
偏差	-0.9	+2.1	+0.3





昭和63年2月2日
茨城県行方郡玉造町甲1560
茨城県内水面水産試験場

茨内水試図